

韓国の落葉果実事情(ナシ)

米国農務省GAINレポート 2023年11月2日

これは米国農務省海外農業局ソウル事務所(韓国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要点

韓国の2023/24販売年度(以下「年度」)のナシの生産量は、春の開花期から夏にかけて産地の悪天候が続いたため、20%減少すると予想される。損傷を受けた果実の割合が高いため、品質の良いナシの供給量は平均を下回ると予想される。2023/24年度のナシの価格は高くなると予想されるが、他の生鮮果実ほど劇的な上昇ではないと見込まれる。消費パターンの変化、農家人口の高齢化、及び気候変動の脅威の増大により、韓国のナシ部門は栽培面積と生産量の減少傾向が続くものと予想される。

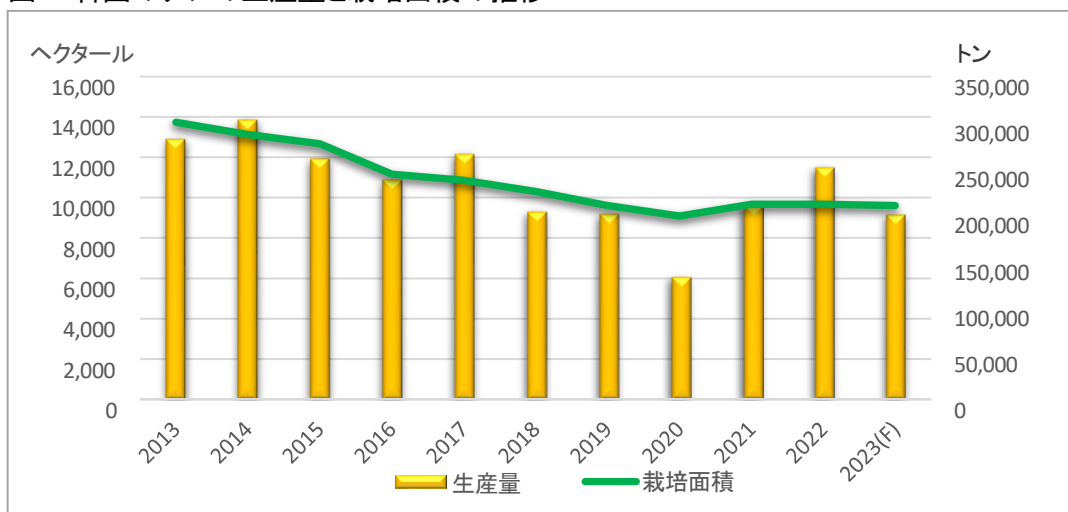
生産

2023/24年度(7月～翌年6月)の韓国のナシの生産量は、前年度(25万1,093トン)に比べて約20%減の20万トンと予測される。生産量が減少した主な原因は、3月下旬の早咲きと、それに続く開花期の霜害で着果数が減ったことによる収量(果樹1本当たりのナシ収穫量)の減少である。その後も、頻繁な大雨、降雹、極端な熱波など、果実肥大期の悪天候が作柄に影響した。2023年の悪天候は、リンゴ、モモ、カキなど国内の他の主要果樹にも悪影響を及ぼし、韓国の果実の総生産量は全体として約10～20%減少すると予想される。2023年に見られたような異常気象がますます頻繁に発生する中、韓国の落葉果実生産は気候変動の影響を特に受けやすい。前回は2020/21年度に同様の天候で、13万2,580トンという記録的な低水準となった。

2023年初頭の冬の気温が穏やかであったため、ナシの開花(通常は4月上中旬)が3月下旬の早咲きとなった。4月上旬の低温によりナシの花蕾が黒ずんで枯れたり、花蕾の生育不良で着果率が低下したりして、落花・落果が多くなった。一部の生産者は、防霜ファンを使用して冷気を吹き飛ばしたり、果樹園に温めた風を送ったりすることで、霜害を回避することができた。気候変動によって冬の休眠期間が短縮されたため、生産者の協同組合では開花の前倒しのリスクを軽減するために防霜ファンの設置への投資が増えている。

主要なアジアナシ品種であり、韓国のナシ総生産量の85%を占めている「シンゴ」(日本の「新高」品種)は、2023年4月上旬の開花期の低温により着果量が減り、収量が減少するため、2023/24年度の生産量が減少すると予想される。また、2023年の夏(7月及び8月)は、雨が多く高温であったため、熱ストレスや果皮の変色などの生理障害による奇形果が増加した。その結果、韓国のナシ業界では、品質の低い果実の割合が平均を上回り、市場性の高い果実の出荷量が減少すると予想している。

図1 韓国のナシの生産量と栽培面積の推移



出典: 韓国統計庁ワンストップ統計サービス(KOSIS)及び韓国農村経済研究院(KREI)

(F)は予測値

2022/23年度の韓国のナシの生産量は、春の開花期(4月)の好ましい気象条件により低温被害が少なく、2021/22年度の21万293トンに比べて約20%増の25万1千トンとなった。2022年のナシ生産量が増加した主な理由は、前年度と比較して果樹1本当たりの着果量が増えたため、収量(単位面積当たりの生産量=kg/10アール)が19%増加したことである。

栽培面積

2023/24年度の韓国のナシの栽培面積は、人件費の上昇による農家収益の減少と人口動態の変化(高齢化)により、約1%減の9,607ヘクタールと予測される。韓国の農村人口が減少し、農業生産者の平均年齢が上昇するにつれて、生産者はナシのような労働集約的な作物から、シャインマスカット等の収益性のより高い他の作物への転換を続けている。韓国のナシ生産では、一つ一つの花の人工受粉が必要であり、多くの場合手作業で行われる。さらに、ナシの果実を望ましい淡い黄金色に仕上げるため、また輸出農場の場合には植物検疫条件を満たすため、果実肥大期の早い段階で個別に袋掛けすることが多い。

2023/24年度において、全羅南道(2,710ヘクタール)と忠清南道(2,127ヘクタール)が韓国の主要なナシ産地であり、あわせて総栽培面積の50%を占めている。残りの50%は、国内の他の地域に分散している。韓国のナシの栽培面積は、過去3年間は平均9,600~9,700ヘクタールの水準を保っているが、周辺地域の都市化、生産者の高齢化、営農コストの上昇、及び収益性のより高い作物への転換により、徐々に減少してきている。

韓国のナシの品種は、2022/23年度の総栽培面積の85%(8,258ヘクタール)を占める中晩生品種のシンゴ(新高)が主流であり、次いで早生品種のウォンホン(원황)が栽培面積の4.5%(438ヘクタール)を占めている。シンゴが韓国で長い間ナシの主力品種として残っているのは、他の品種に比べて品質が高く、貯蔵期間が長いことから、多くの消費者に人気があるためである。成木化した果樹は数十年間(30年以上)生産性を維持し、リンゴの木とは対照的に、生産者がナシを改植することはあまりない。

表1 韓国の地域別ナシ栽培面積(単位: ヘクタール)

道	2021/22	2022/23	2023/24	増減率(%)
	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	
京畿道	1,597	1,530	1,488	-2.7
忠清北道	246	232	187	-19.4
忠清南道	2,108	1,991	2,127	6.8
慶尚北道	1,106	1,005	986	-1.9
慶尚南道	423	492	475	-3.5
全羅南道	2,552	2,729	2,710	-0.7
全羅北道	730	819	788	-3.8
その他	913	884	846	-4.3
合計	9,675	9,680	9,607	-0.8

出所: 韓国統計庁

表2 韓国の品種別ナシ栽培面積(単位: ヘクタール)

暦年	シンゴ	ウォンホン	その他	合計
2014	10,891	776	1,460	13,127
2015	10,544	732	1,388	12,664
2016	9,429	646	1,269	11,164
2017	9,426	525	949	10,861
2018	8,902	484	917	10,303
2019	8,250	461	904	9,615
2020	7,733	436	922	9,091
2021	8,282	445	948	9,675
2021	8,282	445	948	9,675
2022	8,258	438	984	9,680

出典: 韓国統計庁

輸出

2023/24年度の韓国のナシ輸出量は、ナシ生産量の減少と悪天候による品質の低いナシの割合の増加により、前年比19%減の2万4千トンと予測される。主な輸出市場は米国と台湾で、合わせて2022/23年度の総輸出量の75.5%を占め、次いでベトナムが15.3%を占めた。

2022/23年度の韓国の対米ナシ輸出は、2022年9月からの輸出規制緩和により、前年比23%増の1万1,161トンとなり、総輸出量の38%を占めた。韓国産のナシを米国農務省動植物検疫局(APHIS)の事前承認制度の枠外で米国に輸出することを許可する新しい制度により、生産者は出荷シーズンごとの事前承認の終了後に、当初の契約量を超えてナシを輸出することができるようになり、柔軟性が高まった。

米国に次いで、台湾は韓国のナシ輸出量の37.6%(1万1,082トン)を占めた。

ベトナムの韓国産ナシの輸入量は過去3年間で、2020/21年度の2,461トンから2022/23年度の4,514トンへと83.4%増加した。2021/22年度から2022/23年度にかけては、韓国食品を含む最近の韓国文化の人気により、前年比55.4%増加した。韓国産のナシ、イチゴ、シャインマスカットなどの高級果実の贈答品としての人気が高まったため、ベトナムの消費者の韓国産果実に対する需要が増えている。

表4 韓国のナシの生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年7月		2022年7月		2023年7月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
大韓民国						
栽培面積(ヘクタール)	9,675	9,675	9,687	9,680	0	9,607
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	210,293	210,293	244,000	251,093	0	200,100
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	210,293	210,293	244,000	251,093	0	200,100
輸入量(トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(トン)	210,293	210,293	244,000	251,093	0	200,100
国内消費量(トン)	186,293	186,247	214,000	221,632	0	176,100
輸出量(トン)	24,000	24,046	30,000	29,461	0	24,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	210,293	210,293	244,000	251,093	0	200,100

表5 韓国のナシの生産状況 1/

年	面積(ha)	生産量(トン)	収量(kg/10アール)
2015	12,664	260,975	2,061
2016	11,164	238,014	2,132
2017	10,861	265,757	2,447
2018	10,303	203,166	1,972
2019	9,615	200,732	2,088
2020	9,091	132,580	1,458
2021	9,675	210,293	2,174
2022	9,680	251,093	2,594
2023 2/	9,607	200,100	2,083

1/ 暦年ベース

2/ 韓国農村経済研究院(KREI)による速報値

出典: 韓国統計庁ワンストップ統計サービス(KOSIS)

表6 韓国のナシの用途別仕向量 1/ (単位: トン)

年	合計	生鮮消費	輸出	加工
2017	265,757	234,200	27,157	4,400
2018	203,166	166,141	32,925	4,100
2019	200,732	164,522	30,710	5,500
2020	132,580	100,624	23,556	8,400
2021	210,293	180,052	21,841	8,400
2022 2/	251,093	該当なし	26,274	該当なし

1/ 暦年ベース

2/ KREIによる速報値及び当事務所

出典: 農林畜産食品部(MAFRA)

表7 韓国のナシの生産量(果実生産量全体に占める割合)(単位: 千トン、割合: %)

年	果実合計	ナシ	割合(%)
2015	2,364	261	11.0
2016	2,387	239	10.0
2017	2,358	266	11.3
2018	2,160	203	9.4
2019	2,206	201	9.1
2020	1,976	133	6.7
2021	2,109	210	10.0
2022	該当なし	251	該当なし

出典: 韓国統計庁ワンストップ統計サービス(KOSIS)

表8 韓国の一人当たり果物消費量(単位: kg)

年	合計	リンゴ	ナシ	モモ	ブドウ	カキ	柑橘類	その他
2017	61.2	10.5	4.6	4.3	4.7	2.1	11.6	23.4
2018	57.5	9.2	3.3	4.0	4.5	1.9	12.0	22.6
2019	56.6	10.3	3.3	4.1	4.5	1.8	12.1	20.6
2020	51.5	8.1	2.1	3.6	4.3	1.6	12.6	19.1
2021	54.4	9.9	3.6	3.8	4.5	1.3	11.8	19.5
2022 1/	該当なし	10.9	4.4	4.0	4.5	2.2	11.9	該当なし

出典: 農林畜産食品部(MAFRA)

1/ KREIによる速報値及び当事務所

表9 韓国の月別ナシ輸出货量 (単位: トン)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017	2,980	1,964	1,450	537	317	13	0	3,127	4,675	3,742	4,583	3,769
2018	5,110	2,029	2,533	1,411	543	118	17	2,991	2,719	5,532	5,673	4,250
2019	3,119	878	1,062	485	276	27	2	4,658	3,251	5,720	5,873	5,359
2020	2,626	1,525	1,231	567	195	12	28	1,230	4,359	4,393	4,486	2,904
2021	1,109	333	236	35	10	6	3	2,746	3,091	4,946	5,095	4,231
2022	1,787	635	913	352	103	61	21	4,119	2,890	4,786	5,087	5,439
2023	1,450	2,206	2,212	662	397	193	77	2,805	-	-	-	-

出典: 韓国税関及び韓国貿易協会

表10 韓国のナシ輸出

国名: 韓国						
品目: 生鮮ナシ(HS0808.30) 単位: トン、千米ドル						
輸出先	2020/21 (2020年7月~2021年6月)		2021/22 (2021年7月~2022年6月)		2022/23 (2022年7月~2023年6月)	
	輸出货量	輸出額	輸出货量	輸出額	輸出货量	輸出額
米国	8,436	28,189	9,076	33,666	11,161	38,472
台湾	6,530	21,589	9,798	28,474	11,082	24,277
香港	443	1,457	564	1,843	641	1,692
ベトナム	2,461	6,627	2,905	7,639	4,514	9,240
その他	1,259	4,237	1,703	5,551	2,063	6,440
合計	19,129	62,099	24,046	77,173	29,461	80,121

出典: 韓国税関及び韓国貿易協会